

研究主題

勢いのある鳥取市の体育 ～はずむ心 豊かな学び 確かな力～

1 研究主題について

「勢いのある鳥取の体育 ～はずむ心 豊かな学び 確かな力～」の研究主題のもと、第52回中・四国小学校体育研究会鳥取大会（米子会場）以降も、鳥取市では確かな実践を積み重ねている。この土台をもとに、学習指導要領改訂の方向性を確認しながら、平成35年度の第61回中・四国小学校体育研究会鳥取大会に向けて、副題を～豊かな関わりを通して、自己を高め、学び続ける力の育成～とし、一歩ずつ研究を深めていきたい。

平成33年度には鳥取県小学校体育研究大会が鳥取市で行われる。その準備に取り組む30年度は、各ブロックの授業研究会、夏季一泊研、中・四国小体連等への積極的な参加を通して、指導力の向上を図っていきたい。

副題 ～豊かな関わりを通して、自己を高め、学び続ける力の育成～

- ・「豊かな関わり」とは、友達や教師、学習の場やルール、教具などと豊かに関わったり、活発な言語活動（伝え合い等）を行ったりすること。
- ・「自己を高め」とは、自己の運動能力、健康・安全についての理解力を高めること。
- ・「学び続ける力」とは、運動の楽しさや、健康の大切さを追求し、自らの学習活動を振り返りつつ、課題を修正したり、新たに設定したりしながら、次の課題に向かう力。（生涯にわたって心身の健康を保持し豊かなスポーツライフを実現するための力と考える。）

2 研究の視点

- ① 身に付けさせたい力を明確に持った指導
- ② 自己の気づきへの指導
- ③ 形成的授業評価や振り返りを活かした指導



④子どもたちに考えさせる場面をつくる学習過程の工夫

※思考を深めるために発言を促したり、気づいていない視点を提示したり、比べさせたりする。

3 研究の取り組み（授業研究会）

- ・10月17日 Bブロック授業研究会
「めざせ2020 ハマムランピック」（ハードル走）6年生
浜村小学校 徳吉大吾 教諭 指導助言 面影小学校 横田博昭 教頭
- ・12月10日 Aブロック授業研究会
「美・美・美」（マット運動）5年生
湖山西小学校 中澤達也 教諭 指導助言 城北小学校 長谷川誠一 校長
- ・12月17日 Cブロック授業研究会
「東京エアオリンピック in 湖南を開こう」（表現運動）5年生
湖南学園 大黒晃嗣 教諭 山坂 明 教諭 指導助言 倉田小学校 安本雅紀 教頭

- ・各ブロック研究会の実践のまとめを1月25日の鳥取市体育冬季研修会で発表
- ・研究集録「躍動48集」の刊行

【陸上運動領域】

研究テーマ

「友達とのかかわりを通して、主体的に学び、生き生きと楽しく運動する子どもをめざして」

～「目指せ2020 ハマムランピック」の実践より～

鳥取市立浜村小学校 徳吉 大吾

1 はじめに

高学年の「ハードル走」は、一定の距離を全力で走ったり、リズミカルにハードルを走り越えたり記録に挑戦したり、相手と競走(争)したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。基本的な技能を身に付けて、中学校の陸上競技の学習につなげていくことが求められる。また、自己やグループの課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、安全に気を配ったりすることができるようになる事が大切である。

事前に行った、アンケートでは7割の児童が「体育が好き」と回答しているが、「ハードル走は好きですか」の項目は4割の児童が好きと答え、3割は嫌いと回答した。嫌いな理由の多くは「転ぶ」「痛い」などであった。「記録に挑戦することは好き」の項目で嫌いと回答した児童は1人であった。

そこで本単元では、ゴムハードルを用いた。1時間ごとに一人ひとりの目標タイムに対する記録の伸びを掲示し記録に挑戦していこうという意欲を高めた。ハードルリレーを行いチームの記録を伸ばすために、友達同士での教え合い、課題を解決できるような学習を行った。運動が苦手な児童へ配慮として視覚的な支援を多く取り入れと取り組んだ。

2 研究の実際

(1) 効果的な指導

①ICTの活用

上手なハードリングを身につけるために、よいイメージを持って学習に取り組むことでよりよい技能が身につくと考える。そこで、空き時間を活用してNHKの「体育のすけ」を活用して、ハードリングに必要なことを確認した。学習の最初に、前時の自分達の動きを全体で確信したり、タブレットを用いて、自分の動きを確認させたりしながら指導を行った。遅延動画アプリ「はなまるフォーム」を使い、チームごとに自由に見られるようにし、その時間の中で身につけたい動きを確認したり、児童同士でアドバイスし合えるようにしたりした。



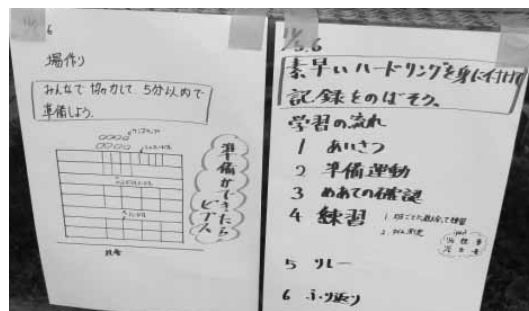
②ハードリングのコツ掲示

ハードリングのコツを「ふみ切り」「ふりあげ足」「ぬき足」「着地」の4つに分けて、子ども達の言葉を書き入れたものを学習中に見えるように掲示するとともに、教室にも掲示して意識できるようにした。



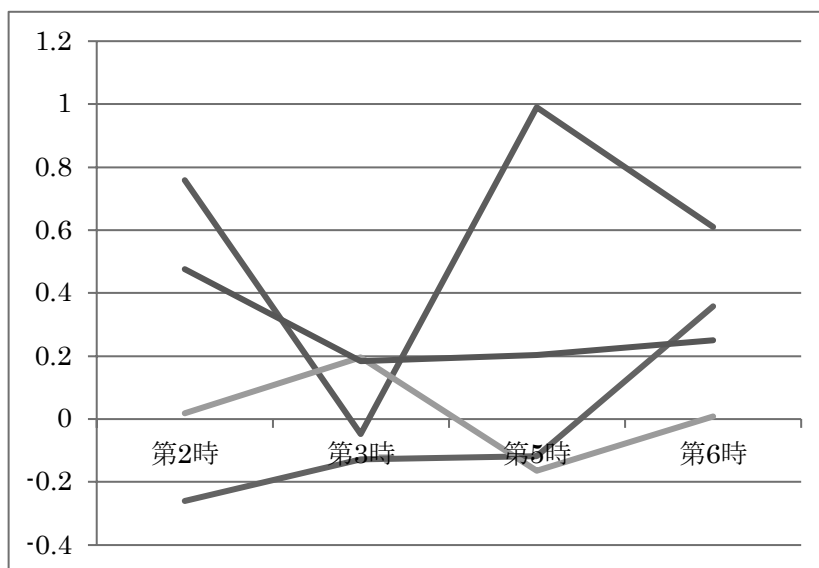
③学習内容の可視化

ハードルなどの場の設定、本時のめあて、1時間の学習の流れ、を毎時間教室前に掲示しておき、見通しを持って取り組めるようにした。



④目標タイムの設定

目標記録(40m 走のタイム+4 台×0.3)を目標タイムに設定して取り組ませた。目標タイムにしたいの伸びを毎時間感じ、教え合うことでタイムが縮まっていっていることが分かるようにタイム測定後グラフにして掲示した。



⑤グループ対抗リレー

グループでは、自分達の課題を見付け、それに対する解決の練習を自分達で行った。グループごとのタイムの伸びを掲示することでタイムが良いだけではなく、目標タイムに対する伸びを感じ意欲的に取り組めるようにした。

目標タイムからグループを4つ作り、2つで1チームを作り対抗でリレーを行った。3つの組合せで行うことで競ったリレーになるようにした。



(2) 振り返りを生かした指導

形成的授業評価のアンケートやグループごとで行う振り返りを行った。また、タイムの変容をもとに次時の授業作りに生かすようにした。



3 成果と課題

【成果】

- ゴムハードルを使うことによって、恐怖心を持っていた子も取り組みやすく、よりよいハードリングの技能を向上させようと取り組むことができた。
- リレーを行うことで、個人競技になりそうなハードルでグループの中で教え合う場面を作ることができた。インターバルの変更など作戦を考えて練習に取り組めるようになった。
- タブレットで映像の撮る時、正面からなのか横からなのか、より自分の動きが見やすいように工夫することができた。

【課題】

- 「リズムカルに走り越す」ことを3歩で統一して取り組んだが、こだわらずに失速しないことを意識して取り組むことが大切であった。
- 低いハードルから、高さを上げて取り組んだが、もっと抜き足を意識して取り組む為にはもう少し高いハードルで取り組む必要があった。
- 40mに毎回挑戦するのではなく、1台目だけで練習する必要があった。



1 単元名 目指せ2020 ハマムランピック(陸上運動「ハードル走」)

2 授業づくりの構想

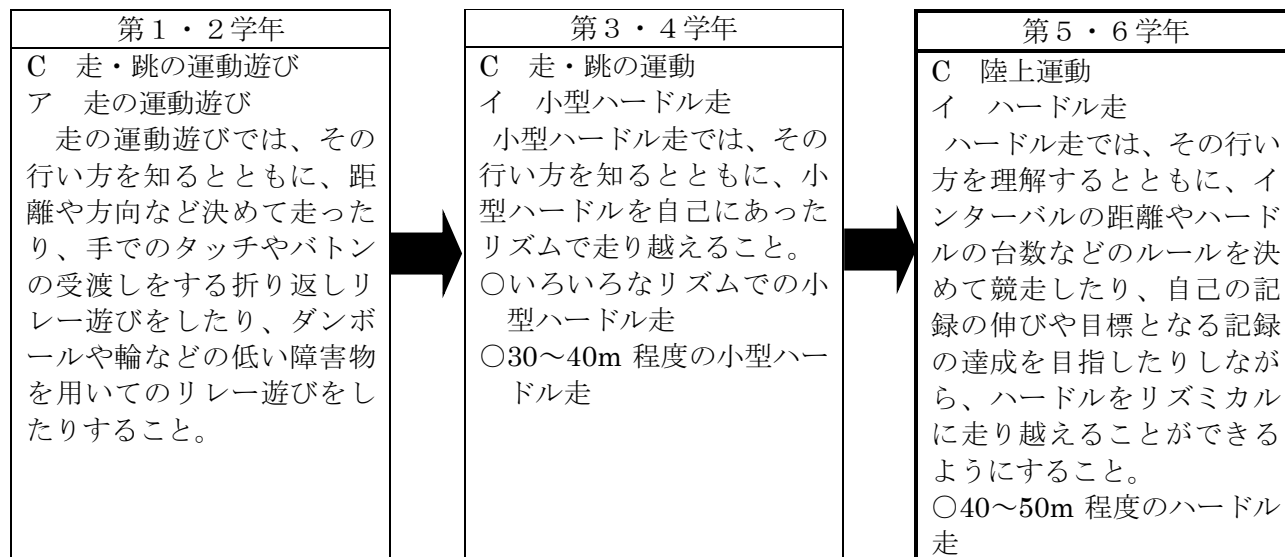
(1) 運動の持つ特性(単元について)

- 一定の距離に置いたハードルをリズムカルに走りこして、友達と競走したり、自分の記録に挑戦したりして楽しむ運動である。
- より速く走るためには、ハードル間を一定の歩数でリズムカルに走り抜けることが必要である。
- 素早いハードリングを行うためには、ふりあげ足、抜き足、踏み切り、着地などについての技能が必要である。
- 技能を身につける場において、課題を見つけたり、その解決方法を工夫したりする際に、友達の考えや取り組みを認め合うことで共に伸びる態度を育てることができる。また、ハードルの準備や片付け、計測や記録など役割が多く、お互い協力しながら活動できる。

(2) 児童の実態

- 本学級の児童は、昨年度の体育科学習でハードル走の学習を行っている。素早いハードリングのための技能についての理解はできていない。
- 体育学習についてのアンケートを行った結果、7割の児童が「体育が好き」と回答している。「ハードル走は好きですか」の項目は4割の児童が好きと答え、3割は嫌いと回答した。嫌いな理由の多くは「転ぶ」「痛い」などであるが「速くなっているか分からない」である。「記録に挑戦することは好き」の項目で嫌いと回答した児童は1人であった。
- 友達ができたときに一緒に喜び合ったり、応援したりするときに自然と声が出る。

(3) 運動(学習内容)系統性



(4) 単元目標

【知識及び技能】

ハードル走の楽しさを味わい、ハードルの走り越し方を理解するとともに、リズムカルに走り越すことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

自分やグループの課題を解決するための仕方を工夫し、友達に考えたことを伝えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

ハードル走のルールを守ったり、安全に気を配って積極的に取り組んだりするとともに、競争(走)の勝敗を受け入れることができる。

(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

- 単元前半では、楽しみながらリズムカルに走りこえる感覚を感じられるように、いろいろなインターバルを試したり、競走したりする。
- 自分にあったインターバルがみつけれられるように5m、5.5m、6m、6.5m、7mのコースを準備する。
- ゴムハードルやペットボトルハードルを用いてハードルへの恐怖心を低くさせる。
- 映像機器を活用し、自分のハードリングを映像で確認することを通して、自分自身の動きのよさや課題に気付いたり、教え合いに活かしたりする事ができるようにする。
- ハードリングのコツを提示し、子ども達の言葉で伝えられるようにする。
- グループ対抗リレーを行うことで、教え合ったり、認め合ったりすることを奨励する。
- 目標記録（40m 走のタイム+4 台×0.3）を目標タイムに設定して取り組ませる。

(6) 単元の流れ及び評価の計画

	1	2	3	4	5	6	7（本時）	8
主なねらい	準備や片付けの仕方が分かり、学習の見通しをもとう。	自分にあったインターバルを見つけよう。		素早いハードリングを身につけよう。		素早いハードリングを身につけて記録を伸ばそう。		練習の成果を確かめよう。
核となる学習活動	・場作り ・40m 記録走 ・試しのハードル走	・いろいろなインターバルで跳ぶ。 ・友達と競走		・ハードリングの練習の仕方 ・グループ対抗リレー		・教え合いや練習の工夫 ・グループ対抗リレー		ハمامランピック（記録会）
学習活動【わかる・できる・チャレンジする】	用具の準備・準備運動・本時の学習の確認							
	・オリエンテーション ・40m 走のタイム計測 ・目標タイムを設定する。 ・試しのハードル走 ミニハードル ペットボトルハードル	・自分にあったインターバルを見つける。 ・ハードル走のポイントを知る。 ・動きの完成度を高める。 ・タイムを計測する。	・素早いハードリングについて知る。 ・動きの完成度を高める。 ・友達と見せ合う。 ・タイムを計測する。	・ハードリングの練習の仕方を知る。 ・チームごとで練習する。 ・リレーの仕方を知る。 ・グループ対抗リレーをする。	・ハードリングの練習の仕方を知る。 ・チームごとで練習する。 ・タイムを測定する。 ・グループ対抗リレーをする。	・ハードリングの練習の仕方を知る。 ・グループごとで練習する。 ・練習を振り返る。 ・グループ対抗リレーをする。		・個人練習をする。 ・記録を測定する。 ・グループ対抗リレーをする。 ・まとめをする。
	用具の片付け・学習の振り返り・次時の学習について							
評価の計画	知	①	②					③
	思		③		②	①		
	学	①	④		②		③	②

具体的な評価規準	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	①ハードルの楽しさを味わい、インターバルを3歩で走り越えることができる。 ②ハードリングの仕方を理解することができる。 ③自分の記録の達成を目指しながら、ハードルをリズムカルに走りこえることができる。	①自分やチームの課題を見付け、課題に応じた練習の場や方法を選ぶことができる。 ②自分の記録やグループ対抗リレーへの挑戦の仕方を選ぶことができる。 ③自分や友だちのハードリングの変化や記録の伸びを見付けたり、考えたことを伝えたりすることができる。	①用具の準備や片付け、計測や記録などで、役割を果たしている。 ②ハードル走に積極的に取り組み、競走やリレーの結果を受け入れている。 ③きまりを守り、友だちと教え合ったり、考えを認め合ったりしている。 ④運動をする場を整備し、安全に気を配ろうとしている。

自分の記録の達成を目指しながら、ハードルをリズミカルに走り超えることができるようにする。【知識及び技能】

運動のきまりを守り、友達と教え合ったり、勝敗を素直に認めたりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

ハードル、ペットボトル、ケンステップ、ipad、液晶テレビ。

児童のつぶやき

言葉かけ・教え合い

核となる言葉かけ

○指導上の留意点・支援★評価 (方法)

○用具の準備から準備運動までは、安全に短時間で準備できるようにする。

○これまでの学習をふり返り、本時の学習のポイントを押さえる。

○前時の学習で行った反省を確認して、記録をのばすために必要なことを確認してから取り組むようにする。

○前時のリレーの映像を確認し、課題を明確にする。

○4つのグループごとに自分達の課題を確認して、課題解決のための練習になるようにする。

○ポイントを意識している児童のハードリングを参考にさせるため、練習を止めて見させる。

○個人のタイム計測を行う。

○前時までの記録も分かるようにしておき目標を持って取り組めるようにする。

○4チームを2チームに編成しなおす。

○作戦タイムを設けて、順番や役割を確認する。

★運動のきまりを守り、友達と教え合ったり、勝敗を素直に認めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】(観察・発言)

・友だちと教え合うときのキーワードを伝えて達成状況のアドバイスをさせる。

○ふり返りボードを使って「楽しさ」「めあてに對するできばえ」をふり返る。

○次の予告をして学習に対する意欲を高める。